



2010年夏、猛暑が続いた八丈島の海は・・・



八丈島の海の様子は？

八丈事業所では、八丈島神湊港内において、毎日午前9時に水温観測を行っています。

下のグラフは2010年6～8月の観測水温と平年値を示したものです。水温は、一時的に平年値を下回る日があったものの、概ね高め的水温で推移しました。8月31日には、8月としては観測開始以来最高の29.8℃を記録しました。また、8月の平均水温は、観測を開始した1928年以降2番目に高い28.45℃を記録しました。

※平年値：過去30年（1970～2000年）の平均水温

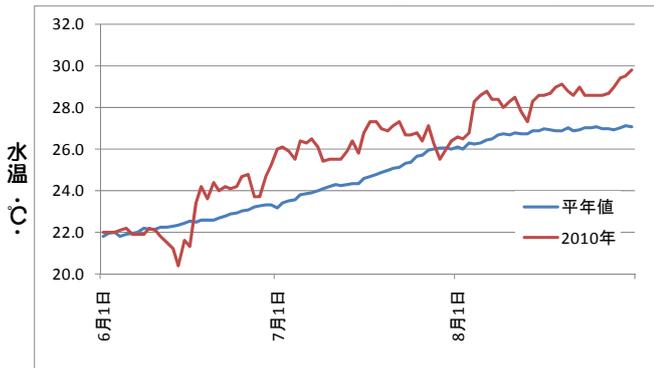


図1 水温観測結果

海水温変化の要因は！

八丈島周辺の海水温は、黒潮の影響を大きく受けて変化します。水温は、黒潮の外側は暖かく、内側は冷たいため、八丈島では、黒潮が八丈島の南を流れ、内側になると“低め傾向”となり、北を流れ外側になると“高め傾向”となります（図2）。

今年の夏は、黒潮が八丈島の北を流れていたため、高水温が続きました。また、台風の発生が少なく、好天が続いたことも高水温になった要因と思われます。

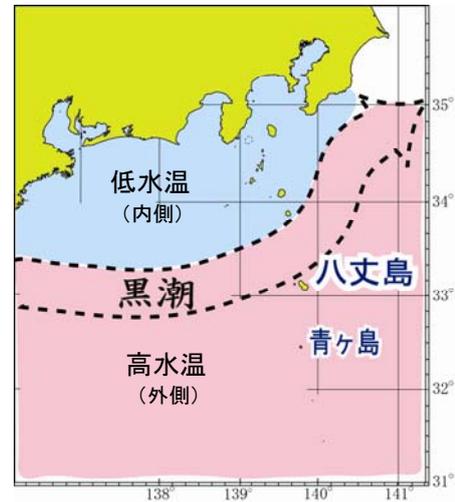


図2 黒潮と水温分布

高水温による影響は？

気象庁によると、今年の夏（6月～8月）の平均気温は、平年に比べて1.64℃高く、観測を開始した1898年以降、最も高かったとされています。

八丈島の水温も高めで推移し、サンゴ白化現象が確認されています（写真1）。また、海藻や貝類の減少などもみられており、海中の状況は以前と大きく変わっています。八丈事業所では、今後も環境と水産生物との影響について調査を続けていきます。



写真1 白化したサンゴ